

持続的な沖縄観光を目指す北谷町起点の観光スタイル「北谷GATEWAY」事業

応募様式A

事業の基礎情報

GOO北谷推進準備チーム

実施主体	グランシーノ株式会社
事業実施地域	沖縄県北谷町、沖縄県本部町
共創の類型	他分野共創
他分野共創の類型	観光・まちづくり
共創パートナー	北谷町観光協会、本部町観光協会、伊江島観光バス株式会社、 沖縄リムジンバス株式会社 、 オンライントラベル株式会社
運行形態	①貸切バス ②道路運送法 4 条
運行主体	伊江島観光バス株式会社、 沖縄リムジンバス株式会社

現状・課題

（地域交通の現状・課題に関する分析）

近年、沖縄那覇空港周辺では、那覇空港近辺にレンタカー業者の集中や観光客のレンタカー利用率の高さから来る長時間の観光客のレンタカー貸渡待機時間が問題となっているほか、レンタカー利用率の高さは、沖縄県の車社会とも合わり、交通渋滞の常態化を引き起こし観光客の満足度低下、地域住民の不満といったオーバーツーリズムにも繋がっている。また、沖縄県等が実施した沖縄旅行における移動手段に関する意識調査によると、若年層のうち44.4%が自動車運転免許を保有していないほか、旅行先で62.9%が運転したくないと回答しており、持続可能な沖縄観光の推進に当たっては、レンタカーに頼った観光は早急に見直すべき課題である。特に、本事業の実施地域である北谷町美浜エリアにおいては、多くの駐車場を設置しているが、観光のために訪れるレンタカー等で駐車場不足や交通渋滞が発生している状況がある。過去に北谷町では、他事業者が空港と北谷町を結ぶ貸切バス(北谷エアポートエクスプレス)の運行を行っていたが、観光客に対する認知獲得施策の不足や予約Webサイトの機能不足等が要因で、ユーザー獲得が進まず採算性を理由に廃線が決定されている。また、町事業のコミュニティバスにおいては、北谷町地域公共交通計画で採算性や認知度の低さが課題とされており、観光客取り込みの必要性が議論されているところである。

地域公共交通計画への位置づけ （位置づけ予定を含む）	有	運輸局・運輸支局への事前相談	内閣府沖縄総合事務局運輸部 企画室と6/10(月)に事前相談済
-------------------------------	---	----------------	------------------------------------

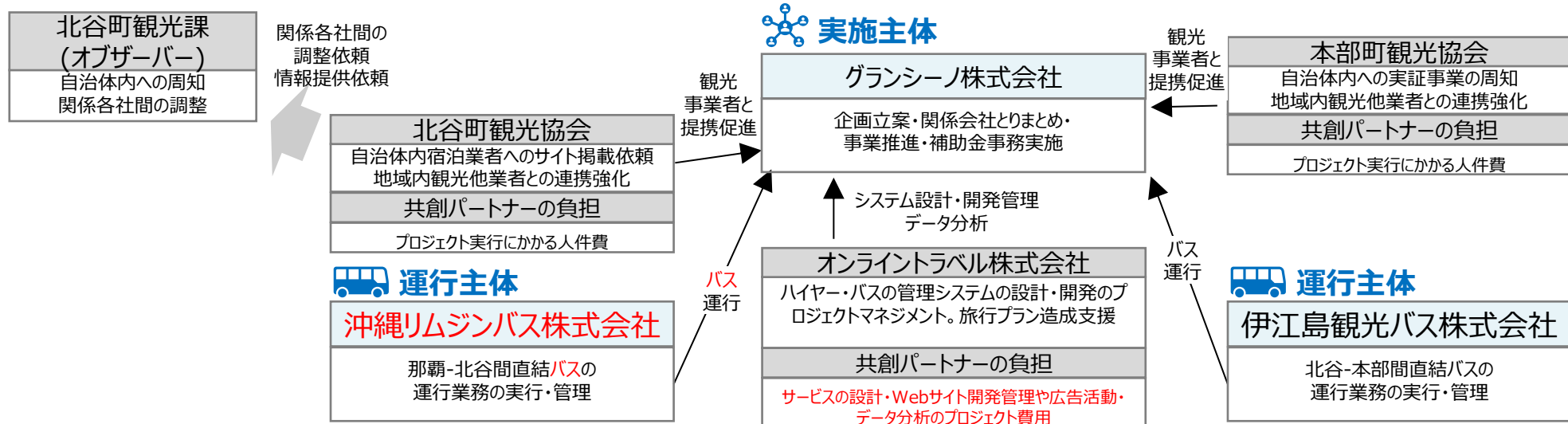
令和5年度共創モデル実証プロジェクトの補助有無	無	無
-------------------------	---	---

持続的な沖縄観光を目指す北谷町起点の観光スタイル「北谷GATEWAY」事業

応募様式A

GOO北谷推進準備チーム

事業の全体像・共創の仕組み



取組の概要

(事業の概要)

課題解決のため主に3つの取組みを行う。① **空港と北谷町を直接つなぎ、ロスタイムの少ない移動を提供する為バス**を用いた「北谷ダイレクトエクスプレス(略称北谷D/E)」の実証運行②人気の高い沖縄美ら島水族館のある本部町と北谷町を結ぶ「北谷-本部ダイレクトエクスプレス(仮)」③北谷へ移動するためのシームレスな情報確認や①・②といった各種交通手段の予約管理を可能とするWebMaaSプラットフォーム「GOO Chatan(仮)」の展開を行う。上記3点により北谷を起点(GATE WAY)とする沖縄観光を形成する。

(地域の関係者との連携・協働)

本事業に北谷町観光協会が参画することにより、地域の宿泊施設や物販、飲食店といった観光関連事業者のコンセンサスが得やすくなり、連携して当事業の取組みがしやすくなるほか、観光客への当事業の情報発信力が強化され認知度向上につながる。また、当協会が頻繁に情報交換を行っている本部町観光協会との繋がりを活かして北谷町と本部町を結ぶことができるほか、本部町観光協会の会員等とも連携して事業を推進することができる。

(地域公共交通ネットワークや既存交通との関係性)

本事業にて展開予定の「GOO Chatan(仮)」は各種交通手段の予約管理が行えるよう拡張性を持たせ、実証事業中は「北谷D/E」の予約プラットフォームを開発するほか、将来的には北谷町内の域内交通(コミュニティバス等)、北谷起点のバスツアーの予約等を可能とし、観光客がシームレスに北谷町に訪れ、観光できるよう取り組む。また、既存交通の那覇空港から北谷町の宿泊施設へ観光客の輸送を行っている有限会社カー観光や沖縄バス株式会社では**北谷に入るまでに複数の停車場所を設けた路線バス**を運行しているほか、宜野湾市の商業施設や宿泊施設も経由しているが、本事業で運行予定のハイヤーは、那覇空港から北谷町へ直行するほか、質の高い旅行を求める観光客等をターゲットとし差別化を図っている。なお沖縄県が推進する観光2次交通結節点事業とのすみ分けを行っており、当該事業を補完する形となっている。

持続的な沖縄観光を目指す北谷町起点の観光スタイル「北谷GATEWAY」事業

応募様式A

GOO北谷推進準備チーム

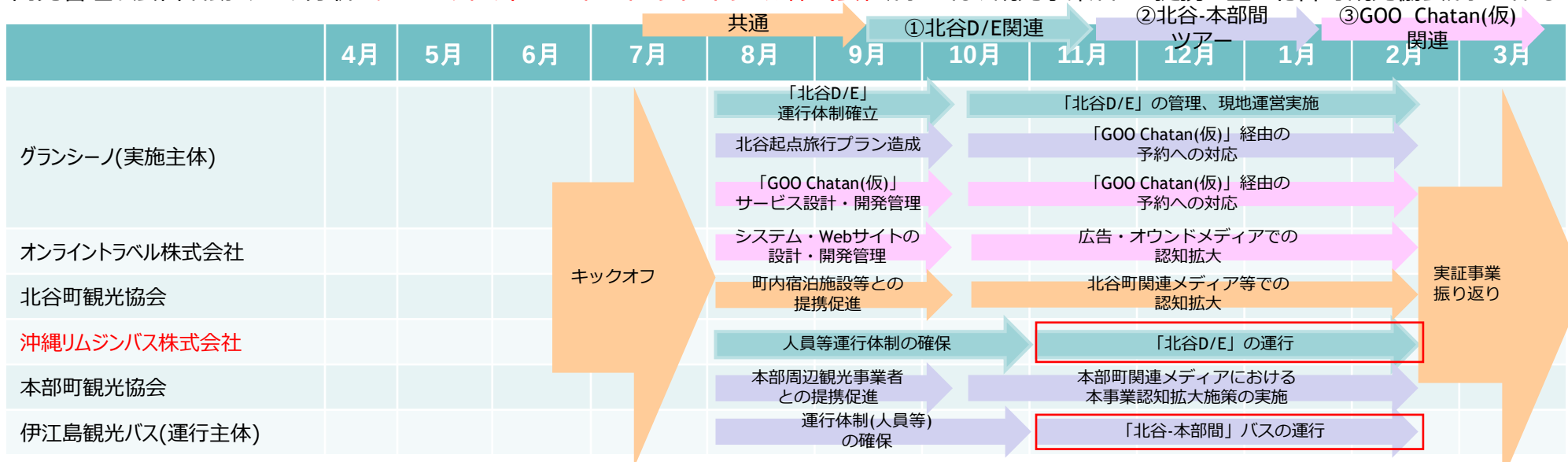
事業実施手順・スケジュール

本事業は①「北谷ダイレクトエクスプレス(略称北谷D/E)」、②「北谷-本部ダイレクトエクスプレス(仮)」、③「GOO Chatan(仮)」の3つにより構成される。

①「北谷D/E」は、那覇空港-北谷直結バスでは那覇空港と北谷町をダイレクトにつなぎ、ロスタイムの少ない移動を提供する観光二次交通事業であり、予約手続のネット完結及び多言語対応によるインバウンド需要取込を実現する。過去課題であったユーザー獲得戦略としては(a)北谷周辺の観光事業者と提携による各事業者のWebサイト「アクセス欄」への本路線の記載追加や、(b)グランシーノ社が保有する自社メディア「沖縄ラボ」及びその旅行業界の関係性を活用した旅行系メディアへの掲載等に取り組む。また社内デジタルサイネージによる副収入確保や、価格データ・乗降データ・アンケート内容の分析による最適な価格戦略立案により持続可能な収益モデル構築を目指す。8-10月は体制整備期間、11月-2月を運行期間と位置づけ、グランシーノ社がサービス自体の実行責任者となり、バス運行は沖縄リムジンバス株式会社、観光事業者との提携は北谷町観光協会、予約管理システムの設計・開発管理・広告活動・データ分析のプロジェクトマネジメントをオンライントラベル株式会社が担当する。

②「北谷-本部ダイレクトエクスプレス(仮)」では、沖縄県内でも人気の高い沖縄美ら島水族館のある本部町と北谷町を結ぶ観光二次交通事業である。8-10月は体制整備期間、11月-2月を運行期間と位置づけ、グランシーノ社がサービス自体の実行責任者となり、観光事業者との提携は本部町観光協会、北谷-本部間のバス運行は伊江島観光バスが担当する。

③「GOO Chatan(仮)」は観光客がシームレスに北谷町に訪れ、観光できるよう、北谷起点の旅行プランの閲覧・予約や、北谷内及び北谷-域外間の交通手段の情報確認・予約が可能なサービスの開発を予定している。8-9月は開発期間、10月-2月をサービス提供期間と位置づけ、サービスの設計・Webサイト開発管理や広告活動・データ分析のプロジェクトマネジメントをオンライントラベル株式会社が担当し、観光事業者との提携は主に北谷町観光協会が担当する。



取組の詳細

（地域交通にもたらされると想定される効果）

「北谷D/E」の運行により、北谷町を訪れる際の観光客のレンタカー利用が減ることで地域の駐車場不足や交通渋滞の緩和に寄与するほか、北谷町が起点となることに加え、「GOO Chatan(仮)」により観光客に利用しやすい地域交通を提供することで、観光客の町内滞在時間を延長し町内周遊性の向上に繋げることができる。また、「GOO Chatan(仮)」では、観光客、特にインバウンド需要も取り込むことを想定しており、将来的にコミュニティバスを含めた北谷町内の地域交通と連携を進めることにより、北谷町内の周遊性向上にも寄与されることが想定される。

（地域全体に及ぶと想定される効果）

「北谷D/E」の運行により、那覇空港周辺で問題となっているレンタカー待機時間削減や交通渋滞解消に寄与し、沖縄を訪れる観光客の満足度向上に貢献することができる。また、「GOO Chatan(仮)」で北谷町を起点とした旅行プランを造成・販売することで、北谷町において年間約1.2億円の経済効果を創出するほか、本部町へのツアーにおいても年間約0.6億円の経済効果を創出し、地域経済の活性化を図ることができる。

※特に以下の効果が想定される場合は、その項目に○をつけ（複数選択可）、当該内容について上記に具体的に記載してください。

○	新たな移動手段の創出や各種送迎への地域住民の混乗などによる、地域住民の利便性向上	貨客混載や各種送迎の公共交通への集約など、交通事業者や地域の関係者の生産性向上
○	乗降データを取得する等、データを活用して、事業検証ができる環境整備	通院者や商業施設の利用者に関する情報など、他分野の移動需要に関するデータの利活用

（補助事業実施後の予定）

今年度の実証事業の結果に基づき、令和7年度は既存の貸切バスの時間等を考慮し、「北谷D/E」の運行見直しを行うほか、今年度の実証運行で取得する価格/乗降データやアンケート内容の分析を行い、最適な価格戦略の立案に加え、全体的に効率化を図りつつ、収益拡大に向けた動きを行う。また、「GOO Chatan(仮)」においては、既存の地域交通の予約管理を同プラットフォーム内に包含できるよう働きかけ、より質の高いMaaSシステムを提供できるよう取り組む。その他にも、副収入の確保を目的に、車両内に設置するデジタルサイネージを活用し、北谷町内の物販や飲食店、体験アクティビティといった店舗や、「北谷D/E」の行き先である宿泊施設からの広告募集を行う。本事業の最重要目標として、特に採算性が重要となる「北谷D/E」の売上/営業利益額ベースで、実証期間中(24年8月-25年2月)、来年度(25年4月-26年3月)、その翌年度(26年4月-27年3月)と目標を立て、持続可能な観光二次交通の確立を目指す。

資金面	本実証運行ではグランシーノ社・オンライントラベル社・伊江島観光バス社、 沖縄リムジンバス株式会社 の自己資金を活用し実施する。本事業における「北谷D/E」や「北谷-本部ダイレクトエクスプレス(仮)」からの運行収益、社内デジタルサイネージを活用した広告収入を確保し、補助事業実施後も持続可能な運行事業の実現を目指す。
人材面（運転手の確保）	本事業においては通常の運行料金に加え、社内デジタルサイネージを活用した広告収入を確保することで、運転手の給与水準を高め人員確保に取り組む。また、必要に応じて外国人運転手の雇用を検討する。